

中公みはら芸備かわら版



残暑お見舞い申し上げます。

異常とも思える今年の夏の暑さを、皆さんどのように乗り切ってくださいましたか？「焼肉をよく食べに行った」という人「クーラーをつけて家で静かに過ごした」という人「海に泳ぎに行かずにいられなかった」という人、夏対策はさまざまですが、「暑くても、夏休み子ども講座だけははずせないです。」といわれた方もおられました。中公で開催した2つの子ども講座の様相を紹介します。子ども達は暑さを忘れてねんど細工に ロボット作りに夢中でチャレンジしていました。完成後は「宿題が1つ出来て安心です！」という親の言葉が印象的でした。(夏休みもついに終わりましたね。)素敵な思い出がいっぱい出来たことでしょう。また来年、中公で楽しい思い出の1ページが出来ることを願っています。来年も皆さんの来館を楽しみにしていま〜す！！

親子で作ろう紙ねんど細工 (僕の私のティッシュボックス)

親子科学工作 (マイロボットを作ろう)



体験講座紹介

新しい風・生涯学習

家庭で作れるやさしい料理

日程 9月11日(水)
場所 調理室(3F)
時間 10:00~13:00
定員 16人
対象 大人
参加費 600円
締切り 9月9日(月)

チャイルドタッチケア(1歳児)

日程 9月12日(木)
場所 和室(3F)
時間 10:00~11:00
定員 10組
対象 1歳児とその保護者
参加費 300円
締切り 9月10日(火)

チャイルドタッチケア(2歳児)

日程 9月13日(金)
場所 和室(3F)
時間 10:00~11:00
定員 10組
対象 2歳児とその保護者
参加費 300円
締切り 9月10日(火)

刃物の復活 (包丁・ハサミなどの砥ぎ講習)

日程 9月19日(木)
場所 調理室(3F)
時間 10:00~11:30
定員 12人
対象 大人
参加費 100円
締切り 9月13日(金)

クラフトテープでかご作り

日程 9月20日(金)
場所 資料室(2F)
時間 9:30~11:30
定員 15人
対象 大人
参加費 600円
締切り 9月13日(金)

笑いヨガ

日程 9月25日(水)
場所 大講堂(1F)
時間 10:00~11:30
定員 30人
対象 大人
参加費 100円
締切り 9月20日(金)

10月の体験講座紹介

- ①初めての茶道教室
- ②ベビーマッサージ(2~5ヶ月)
- ③ベビーマッサージ(6~11ヶ月)
- ④イタリアン料理
- ⑤ガラスアート入門(さざなみ学校)



三原市中央公民館
三原市円一町2丁目3番1号
講座の申込先 中央公民館生涯学習課
TEL 0848-64-2137



新連載企画

「海・山・空」夢ひらくまち

みはら地名由来学

幸崎町【さいざきちやう】

「佐江崎村」から幸崎町に！

△幡さんは「才崎」？

幸崎町は、能地・久和喜・渡瀬の地域で構成されています。以前は「佐江崎村」でした。昭和四年（1929）から昭和三十一年（1956）の間は豊田郡幸崎町になり、同三十一年（1956）9月に三原市幸崎町となりました。幸崎神社は、古くは才崎八幡宮、佐江崎八幡宮ともいわれ、地域の皆さんには「八幡さん」と親しまれています。また、常盤神社は「浜の荒神さん」として崇拜されています。毎年三月の第四土曜・日曜の春祭りには「だんじり」の練り合いや獅子太鼓の奉納祭りが行われています。日本有数の金工家、清水南山（1875～1948）は、金属にたがね等で彫刻をする彫金家で多くの作品を残されています。能地にある南山資料館に展示されています。



だんじりの様子



清水南



須波町【すなみちやう】

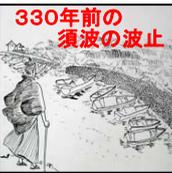
「洲並」「須並」「角南」から須波に！

桜がある山が筆影山・テシビ塔の山が筆王山

古文書によると、年代で「洲並」「須並」「角南」と書かれていましたが、「須波」と書き始められた時期は定かではありません。須波港の波止は三百三十年前に、榑崎正員が東風が強いのをみかねて、私財を投じて築き海運の便を図りました。正員の百回忌にあたる寛政七年（1795）に須波屋敷跡に石碑が建てられました。これらは、県史跡の指定で地元の人々が大切に管理されています。須波駅は昭和五年（1930）に開通し、昭和十年（1935）には呉まで開通し、三呉線の名称により呉線となりました。須波ハイツは昭和四十八年（1973）から昭和六十年（1985）十二年の歳月をかけ面積は54.4ha、戸数880戸の団地が造られました。筆影山は、ふでかけやま？・ひつえいざん？どちらで言っておられますか。どちらも正しいそうです！



三原港から見る筆影山と竜王山



330年前の須波の波止

鷺浦町【さぎうらちやう】

佐木島＋小佐木島＝鷺島！

トライアスロンと地産物

三原港からフェリーで二十五分、風

光明媚な瀬戸内に浮かぶ二つの島（佐木島と小佐木島、周囲十二kmと3km）、

が鷺島です。鷺（佐木）島の由来は①神功皇后が近くを通航中、白鷺の一群が飛び立つのを見て鷺鳥のおる島という意味から「鷺島」と呼ばれるようになった。②幸崎古名帳によると「佐江崎よりこの島を見渡した時、上空に白雲が湧き出て漂うようすが鳥の鷺の美しい姿に似ていたことから、鷺の浦と名づけられた。」と記されています。このように「鷺」については二つの説があります。鷺浦という呼び名は、明治五年（1872）豊田郡鷺浦村という名称になり昭和三十一年（1956）に三原市鷺浦町となりました。以前は塩田の島として知られていましたが、現在はトライアスロン・わけぎ、スイカ、メロン等が島に元気を与えています。



トライアスロン大会

豪雨の中、今年も盛大に開催されました



鹿嶋和置石地蔵

八幡町【やはたちやう】

地名は八幡！ 神社は八幡！

多くの文化財のある八幡町

「やはた」「やわた」とどう？

都から大宰府につながる古代山陽道が通過していたところといえば、市内では八幡、高坂、真良、本郷町下北方で、

八幡は、現在は山陽自動車道三原久井インターもあり交通の拠点としての地域

であります。古墳も多くあり、奈良時代、宝龜八年（777）に御調八幡宮の社殿が建てられたと伝えられています。往時には神官など八十八人がおり、毎年都から参拝に来ておられ「二位谷」「中納言屋敷」などの地名が残っていることから雄大な規模であったことが推測できます。八幡町は「やはた」か「やわた」か、どちらが正しい読み方か？毛利元就の妹は「やわたのお局様」と言われていました。また、八幡庄内の市には「やはた」の市場所在地名が見られます。どちらが正しいとは言いがたいですが地名表示は「やはた」を使用しています。



国重要文化財 木造狛犬 1対



御調八幡宮

「三原をもっと知ろう」ということで三原の歴史、地形や人々の暮らしなどから「地名」が付けられていることを、広島民俗学会理事 榎 博自先生の「みはらみである記」一町名考&ふるさと歴史散歩！と歴史民俗資料館の資料を参考文献にさせていただきました。

写真は、三原市ホームページの歴史民俗資料館より。皆さんのご意見をお聞かせください。